

1. 住吉の歴史と文化が育んだまちなみの魅力

■住吉大社周辺地区の歴史とまちなみの特徴

住吉は古代より海上交通・外交のための港と、海上守護をつかさどる住吉大社を中心に栄えました。

住吉大社の創建は約1800年前にさかのぼり、本殿は市内唯一の国宝建築であり、600基あまりの石灯籠が境内に立ち並びます。また、かきつばたの名所であった浅沢小野は古くからの景勝地であり、行楽をかねて参詣に訪れる公家や文化人が、この地で読んだ和歌が万葉集などに残されています。

中世には熊野詣、伊勢詣の隆盛とともに、熊野街道や紀州街道の交通の要所として発展しました。近世に入り、住吉大社の周辺には農村が形成され、また、近代以降、だんつう業などの商業活動が活発となり、町家が並ぶまちなみはこの頃の姿を今に伝えています。

このように住吉は、都市と農村の両面の歴史を通じて、文化性の高いまちなみを育んできました。



住吉大社周辺地区 HOPEゾーン事業区域 旧街道 寺院・神社

住吉大社周辺地区HOPEゾーン事業区域図

■旧街道や変化のある道の姿

由緒ある熊野街道や住吉街道や地区内の通りの多くは、緩やかに曲がっていたり、突き当たり、筋違いなどで道筋が変化に富み、まちなみを面白くしています。また、土道を残した路面や、坂道、路地などにより、ホッとするまちなみとなっています。



旧熊野街道



土道とアオギリ

■神社・寺院

地区内には、9つもの社寺があり、筋堀や山門、地藏堂、鳥居や灯籠など、それぞれに個性的な表情をもっており、歴史を感じさせます。季節ごとの祭事には、色鮮やかなのぼりやお祭りのしつらいなどで、まちなみが彩られます。



十三佛



一運寺

■伝統的建物や土蔵

地区内には、江戸時代から戦前にかけて建てられた、様々な伝統的様式の建物が数多く残っています。

このうち一番多いものは町家と呼ばれる建物です。町家の敷地は、間口に比べて奥行きが長く、通りに面して間口いっぱいに主屋を建て、奥には中庭、井戸、土蔵などを配置しています。

2階部分が少し低い「つし2階」と、「虫籠窓（むしこまど）」と呼ばれる開口部が特徴的です。軒の出は深く、1階の開口部に設けられた格子や駒寄せと呼ばれる欄が、繊細な表情を醸し出しています。

これらの町家が連なって、美しいまちなみをつくりだしていました。



町家

駒寄せ（こまよせ） 格子（こうし） 大戸（おおど）

主屋の前に庭がある前庭付戸建は、特徴的な屋敷構えです。この他、堀庭付戸建や長屋がみられます。また、白壁の土蔵も随所に残っています。



前庭付戸建



堀庭付戸建

■歴史と文化を感じる緑

社寺境内の豊かな樹林、まちかどの多様な樹種の古木、かきつばた苑や卯の花苑など歴史や文化を感じる緑環境などとあいまって、まちなみが趣のあるものとなっています。とくに、植栽の植え方も、まちなみがひきたつように工夫されています。



浅沢神社 かきつばた苑



まちなかの緑